

1. 診察できる動物病院を探ておきましょう

デグーを診察できる動物病院は少ないのが現状です。怪我や病気をしてから探したのでは手遅れになる場合があります。飼育をはじめの前探、元気なうちに健康診断をかねて受診しておきましょう。



2. デグーについて

南米チリ原産の草食性齧歯目(そうしよくせいげいしむく)です。野生下ではアンデス山脈の標高1200m以下の地域で集団生活をしています。社交性が高い反面、臆病な面もあります。身体の大きさは170~300gくらいで、飼育下での寿命は通常5~7年といわれています。鳴き声で仲間とコミュニケーションをとります。

◎食べ物

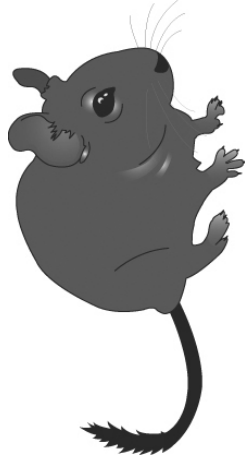
牧草が主食です。ペレットで栄養バランスを整えます。新鮮な水も常備しておきましょう。糖の代謝能力が非常に低く、糖尿病を発症しやすいため、注意が必要です。

○与えてもよい食べ物

【**牧草(主食)**】 →3:飼育に必要な物【**牧草フィーダー**】
普段は子モシー(イネ科)を食べ放題にします。妊娠・子育て中の母親、育ち盛りの子どもにはアルファルファ(マメ科)を補うとよいでしょう。
※マメ科は栄養豊富で肥満の原因となるため、普段は制限しましょう。

【**ペレット(副食物)**】 →3:飼育に必要な物【**エサ入れ**】

体内でビタミンCを作ることができず、不足すると病気になるります。ビタミンCが強化されたデグー用、またはモルモット用のペレットを与えましょう。
※食性が異なるハムスター用のペレットは与えないようにしましょう。

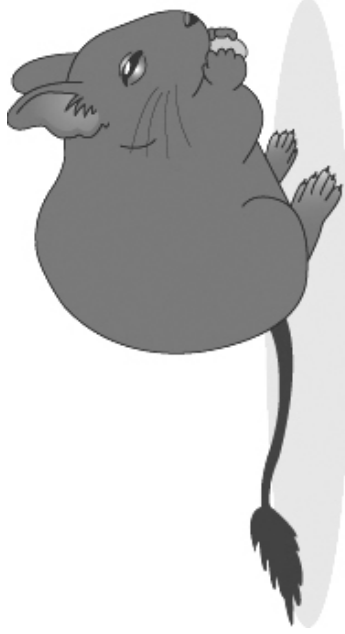


【**その他の副食物**】

ビタミンやミネラルを補う目的で、タンポポ・オオバコ・コマツナなどを適量与える程度にしましょう。
甘い果物や炭水化物の多い穀類、脂肪の多いナッツ類、糖分や炭水化物の多い市販の小動物用オヤツなどは好んで食べようとしますが、健康にはマイナスとなります。喜ぶからと与えないようにしましょう。

×与えてはいけなない食べ物

ネギ類、観葉植物、果物、人間の加工食品、お菓子類など。人間には無害でも、デグーの命にかかわるものがあります。与える前にデグーへの安全性を調べ、不安がある場合は与えないようにしましょう。



◎歯

歯は一生伸び続けます。伸びすぎないように、しっかりと牧草を食べさせ、自然に歯が摩擦するようにしましょう。歯が伸びすぎると不正咬合(ふせいこうごう)という噛み合わせの不調をおこし、全身の病気になることがあります。

◎尻尾

引っ張ると切れてしまい二度と戻りません。絶対に引っ張らないようにしましょう。切れてしまった場合は速やかに病院へつれていきましょう。

◎病気・怪我

日頃から予防につとめ、体調に変化を感じた場合には速やかに動物病院につれていきましよう。

【**かかりやすい病気や怪我**】

糖尿病、白内障、下痢、肺炎、熱中症、低体温症、捻挫、骨折、尻尾切れ、不正咬合、、ビタミンC欠乏症など

3. 飼育に最低限必要な物

【**ケージ**】

上下運動が好きなので、ある程度高さのあるものをおすすめです。複数で飼う場合は大きなケージが必要です。

【**給水ボトル**】

ケージのワイヤー一部に外側から設置するものをおすすめします。よく水洗いをし、毎日新鮮な水にとりかえましょう。

【**牧草フィーダー(牧草入れ)**】

ステンレス製や、かじり木を兼ねた木製があります。

【**エサ入れ(ペレット用)**】

ひっくり返したり、かじったりできないものをおすすめです。陶器製の重い物、ケージのワイヤー一部に引っかけるステンレス製などがよいでしょう。

【**寝床・家・巣(かくれる場所)**】

身をかくす場所、暖をとれる場所を作ってあげましょう。

【**床材**】

ケージの底に敷きます。チップやウッドリター、牧草などがおすすめです。パインチップなどの針葉樹系はアレルギーを起こす場合がありますので避けましょう。

【**回し車(ホイール)**】

成長を考え、直径25cm以上のものをおすすめです。

【**砂場(砂と容器)**】

デグーにとってのお風呂です。デグーが寝転べる大きさの容器と、市販の小動物用浴び砂を用意し、1日1回砂浴びをさせましょう。固まるトイレ砂は使わないようにしましょう。

【**かじり木**】

かじるのが大好きです。市販のかじり木などを入れましょう。ケージの網などをかじらせたくないためにも必要です。

【**温湿度計**】 →5:環境

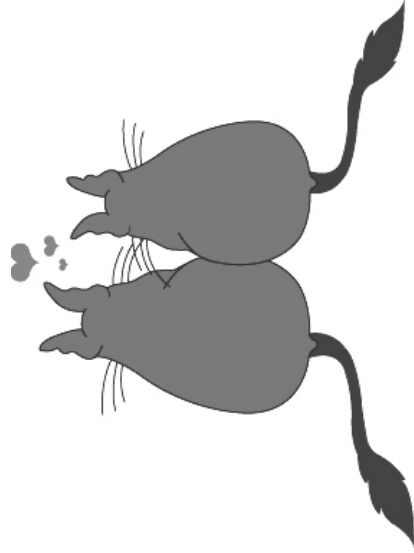
ケージ内の温度や湿度が分かるように、ケージと同じ高さにおきましょう。

【**体重計(スケール)**】

料理用のはかりを利用できます。体重の変化を知ることが、病気の早期発見にもつながります。定期的に量りましょう。

4. 1匹で飼う？ それとも複数？

野生では群れで暮らしているため、1匹での飼育は寂しがる傾向があります。よく相手をしなくてはなりません。2匹以上の飼育は、デグー本来の生活ですが、人になれるのに時間がかかる場合があります。また同居には相性があります。ひどいケンカをする場合は無理をせず、ケージを分けましょう。



5. 環境

環境の変化に敏感で、暑さ寒さ、湿気が苦手です。温湿度管理を怠った結果の熱中症、低体温症による死亡事故も多発しています。夏場はエアコン、冬場はヒーターなどを使い、一定の温度・湿度に保ってください。室温23～25℃、湿度50%以下を目安とするとよいでしょう。

6. お迎えしたら

最初の2～3日はあまり触らず、静かに見守ってあげましょう。自分から寄ってくるようであれば短時間遊んであげるのもよいでしょう。

7. 仲良くなるには

日頃のお世話と、コミュニケーションが大切です。いやがることをせず、やさしく接しながら、小さなコミュニケーションをたくさん積み重ねましょう。

8. 持ち方・触り方

足元を下からすくうようにしてやさしく持ち上げましょう。上から押さえつけるように持つと、手に対して恐怖心を抱くことがあります。触られるのをきらう個体もいます。いやがる場合は無理にこ触らないようにしましょう。

9. トイレのつけ

きまった場所を覚えさせるのは非常に難しいです。ケージの中全てがトイレになると考えましょう。

10. ケージの掃除

簡単な掃除は毎日し、週に一度は大掃除をしましょう。月に一度くらいはケージやステージの丸洗いをしとてあげるとよいでしょう。

11. 繁殖

早すぎる妊娠は母体に負担を与えます。オス、メスの同居は、体ができあがる生後6ヶ月程度まで待ちましょう。妊娠期間は約3カ月で一度に1～10匹の子どもを産みます。出産直後の発情で妊娠する例があります。連続妊娠を避けるために、出産が近づいたらオスを別のケージに移しましょう。

12. 家族です

一度お迎えしたデグーはあなたの家族です。必ず最後まで面倒をみてあげてくださいね。



配布元: デグーリーフレット作成委員会

デグーリーフレットホームページ(携帯対応)

<http://degu.yukimizake.net/mobile/>



※ここに書いてあることは最低限知っていただきたい基本情報です。さらに詳しい内容はホームページをご覧ください。携帯でご覧になる場合はバーコードを読み取ってください。

当リーフレットは、デグー飼育有志が集まり、獣医師の先生方にご助言いただきながら、経験に基づいた飼い方の手引きをまとめたものです。掲載情報の利用は利用者ご自身の責任により行ってください。情報のご利用により生じるいかなる損害についてもリーフレット作成委員会は責任を負うものではありません。記載されている情報は予告なしに変更または削除することがあります。リーフレット掲載の文章、写真、イラスト等の著作権はリーフレット管理者及び作成者にあります。無断転載は一切禁止します。Copyright©2008 デグーリーフレット作成委員会 All rights reserved.

デグーの

How to
Take Care
of
Your Degus.



飼い方

Ver.1.0

デグーをお迎えする前に

- ◆デグーの生態や体についてあらかじめよく調べ、一緒に生活できるか考えましょう。
- ◆お世話をしたり遊んであげたりする時間を毎日作れるか、よく考えましょう。
- ◆飼育用具・消耗品・餌・エアコン代などの光熱費・病気や怪病をしたときの治療費など、デグーの生活を支えるための費用がかかることを考えましょう。
- ◆抜け毛や牧草などであなたやご家族がアレルギーをおこす可能性があります。
- ◆上記したことも含めて、ご家族の理解と協力を得られるか話し合いましょう。
- ◆人間と同じ命もある生き物です。飼うと決めたら、一生面倒をみてあげましょう。

